

北陸域の震源データ 1976-2011
Hypocenter data for Hokuriku Region 1976 – 2011

○竹内文朗・澁谷拓郎・西上欽也・平野憲雄・松村一男・大谷文夫・岡本拓夫
○Fumiaki TAKEUCHI, Takuo SHIBUTANI, Kin'ya NISHIGAMI, Nobuo HIRANO,
Kazuo MATSUMURA, Fumio OHYA, Takuo OKAMOTO

We used the hypo center data for the microearthquake from 1976 to 2011, in the South Tottori to West Hokuriku regions. Mainly, the time and region change of b values will be shown. Three components of extensometers were set in the tunnel near the Hokuriku observatory from 2005 to now on. They show a great change of extents, mainly E-W direction.

1. はじめに

北陸観測所では 1976 年からテレメータ方式での観測が始まった。全国の地震予知計画の一つであり、鳥取、上室でもスタートされた。また阿武山観測所（以前、理学部）も加わり、広い範囲のデータが宇治で見られる様になった。

更に 1997 年 10 月から気象庁一元化が始まり、大学、気象庁、防災科研等の波形データ等がまとめられた。現在は全国の微小地震がくまなく観測される様になっている。

我々はこれまで同様、1976 年-2011 年の 36 年間の震源データの特徴をまとめておきたい。

また、北陸観測所では地震観測に加え、観測所近傍の坑道で、2005 年 10 月より、伸縮計 3 成分による地殻変動観測を始めた。設置場所は坑道入り口より数十メートルの地点で、かつて使用されていた基礎を再利用した。基礎は安定し、長くとも 1 年程度で安定した。その後も坑道は安定していて、2009 年後半のトラブル欠測以外は良好な観測がなされている。

2. 図の説明

Fig. 1 は、1976-2011 年の M2.5 以上の地震を示した。橙で囲った 7 域は、同域で M1.5 以上の地震が近傍と対応良く求まった域である。地震数の多い範囲、b 値の時間的変化が多い域等を調べる。

Fi. 2 は、北陸観測所（およそ $35^{\circ} 56'$, $136^{\circ} 12'$ ）での伸縮計 3 成分、気圧、気温、雨量のデータを示す。補正は行っていないが、伸縮計記録が正しければ、2008 年 1 年は、大幅な東西伸びの特徴を示している様である。

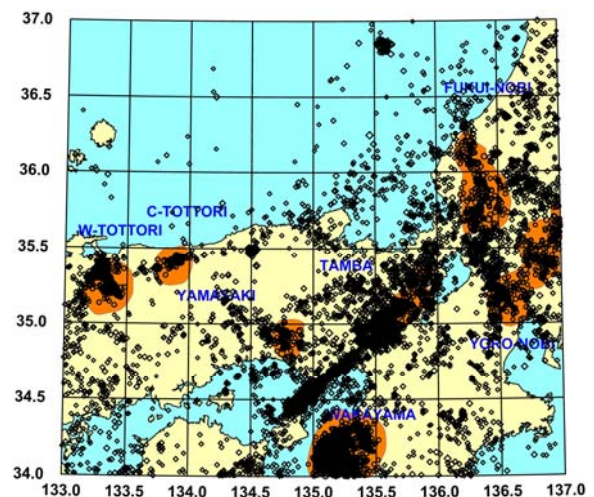


Fig. 1 北陸域及び中国域までの地震分布
有る区間の地震数を 0.1° ずらせた区間のそれとの相関係数が高い所を橙色として計算を進めた。

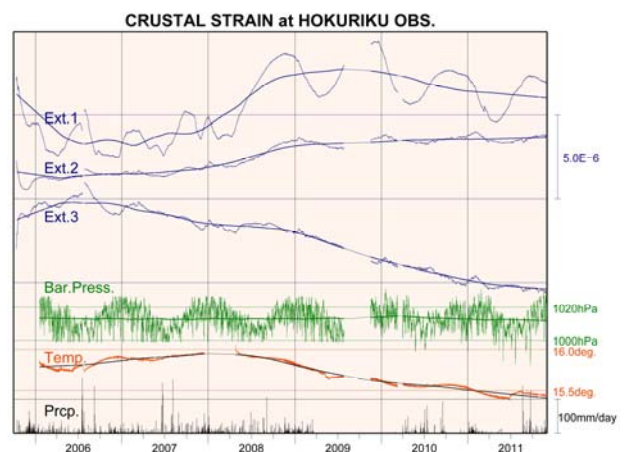


Fig. 2 2005 年 10 月～2011 年 11 月の北陸観測坑での地殻変動観測結果。

Ext.1,2,3 の 2008 年記録は特徴的である。